

◎実顕地一つの出発から何をやるのか

山岸 それより医者^の要らない身体になろうとするのはどうか。
医者^の要る間は要る、要らんようになったら要らんのよ。
今でも金^の要る間は要る、要らんようになったら要らん。

要らなくてよいものがあるというのは、死んだもの、生かされないものと思うね。
今の金^が要らんようになったら、何でもタダになる。通貨^が要らんようになるが、
「それでも通貨^を作らんならんか」と言うの。

わざわざ作っていかんでもよいわね。農具でもどんどん新しいのが出来て、昔の千枚刃^{いねこ}の稲^{いね}扱き^こを作らんでもよいと、こういうものやね。要らないのだから、作らんでもよい。よく養鶏でも、ワクモがこの世になくならたら予防の必要もないもの。だが、ワクモのある間は、それを駆除する法も必要だが、それがなくなれば、わざわざ薬も作る必要もない。こういうものやと思うけど。要らないようになっても作るという必要はないと思う。

A 「研鑽する必要もなくなれば、研鑽も要らん」というものやね。

山岸 そらそうやが、そこに進歩発展する間は、研鑽も大いに必要や。
「研鑽^が要るから、医者^が要るものだ」と混線しないようにせんと。
「間違いが起こらないから、それでよい」でなしに、それからいろいろ発展する。

人間でも部品を換えたら何百年でも生きていけるといった、産み出していく科学、研鑽は必要だという。病気がなければ病気を治す医者^は要らん。宗教^の医者^といった、頑^{かたくな}な医者^も要らないと、こういう意味やね。「もっといい治療法はあるか」、或いは「病気が起こってこないようにするのはどうするか」と、こういう科学する医者^は必要だと言ってるわけ。そこをハッキリ、どうですか？ ちょっとした、こっちの言わんとする心を、そのままとってもらえん時に起こる誤解ね。

山岸 「要るものは要る、要らないものは要らない」と、こういうことやね。
人を食った意味やなく、正確に。

生まれるという自然任せでないもので、
「要らないものは作る必要ない」という考え方ね。

「必要なものは必要。要らんものは必要ない」とする考え方よ。そこに自分が狙ってるのは、必要がなくなるのに、その究明がないために、いつまでも必要としてる無駄をなくしていこうとしているの。科学・究明して、要らないところへもっていこうとするのを、真の科学とか、研鑽とか言ってるわけやね。

(第四回理念研鑽会より)